

東京都が実施する資源評価の基準

1 基準の適用範囲

この基準は、「東京都資源管理方針」及びこれに基づく資源管理目標を検討するために東京都が実施する「水産資源の資源状況の評価」（以下「資源評価」という。）の方法に対して適用する。

2 資源評価を実施する水産資源

- （１）資源評価を実施する水産資源は、次のアからオまでの要件を勘案して選定する。
- ア 東京都海面に分布し、東京都の漁業者の漁獲対象となっていること。
 - イ 東京都資源管理対象種（東京都資源管理方針の別紙３に記載された水産資源をいう。）又は東京都資源管理対象候補種となっていること。
 - ウ 栽培漁業若しくは漁場造成又はその両方の対象となっている水産資源であること。
 - エ 漁獲情報及び生態的知見が得られていること。
 - オ 国が漁獲量の上限を定めている水産資源ではないこと。
- （２）（１）で選定した水産資源について資源評価の対象とするか否かの決定は、資源評価会議で行う。

3 資源評価の項目及び内容

資源評価の項目及び内容は、次の（１）から（５）までの事項とする。なお、（３）イ及び（５）の方法については「別紙１」のとおり魚種毎に定める。

- （１）生物情報
- ア 分布及び回遊
 - イ 年齢及び成長
 - ウ 成熟及び産卵
 - エ 被捕食関係
- （２）漁業情報
- ア 漁業の概要
 - イ 漁獲量の推移
 - ウ CPUE の推移
- （３）資源水準
- ア 使用できる最大期間の資源量指標値の推移を基に最新年の資源水準を示す。
 - イ 資源量指標値は、資源量、CPUE 及び漁獲量等を対象とし、漁獲方法が変わらずに収集された連続する値を用いる。
 - ウ 採用する資源量指標値の種類については、「別紙２」に示すフローチャートにより判断する。
 - エ 資源水準は、過去の資源量指標値の最大値を３等分し、上から順に高位、中位、低位とする。
- （４）資源動向
- ア 資源量指標値の取得期間のうち直近５年間の動向を示す。
 - イ 資源動向は、「増加」、「減少」又は「横ばい」のいずれかで示す。

ウ 資源動向は、資源量指標値の直近5年間の変化を回帰直線の傾きに基づき判断し、年変動率5%以上の増加を「増加」、5%以上の減少を「減少」とし、5%未満の増加又は5%未満の減少を「横ばい」とする。年変動率は回帰直線の傾きを中間年（3年目）の推計値で割る事で求めることとする。

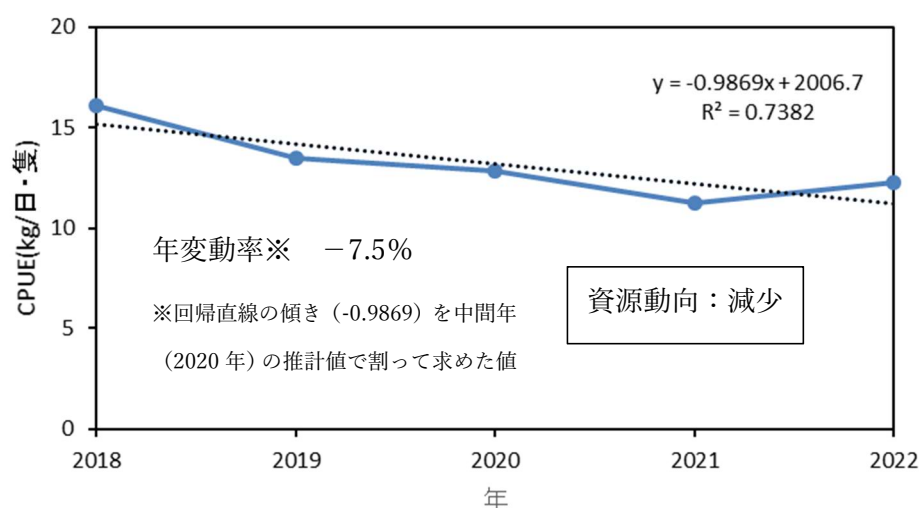


図 資源動向の判断の例

エ 「漁獲方法が変わらずに収集された連続する資源量指標値」による判断ができない場合は「不明」とする。

(5) 資源管理目標の提示

ア 資源評価の結果に基づき、資源管理に向けた資源管理目標を MSY 管理基準値(案)、ABC、CPUE 又は漁獲量の何れかの指標により提示する。

イ 国が定める資源管理目標がある場合はこれを採用する。

(6) 資源評価の実施頻度及び結果の取扱い

ア 評価の対象となる水産資源の資源評価は年1回行い、当該水産資源毎に資源評価票として取りまとめる。

イ 資源評価に用いた資源量指標値の種類、算出方法、評価結果及び資源管理目標の妥当性については、資源担当者会議による協議を経て、資源評価会議で検討する。

ウ 資源量指標値の算出方法を変更した際には、従来の手法による算出結果も併記する。また、従来の手法による算出の継続又は終了の判断については、資源担当者会議による協議を経て、資源評価会議で検討する。

4 その他

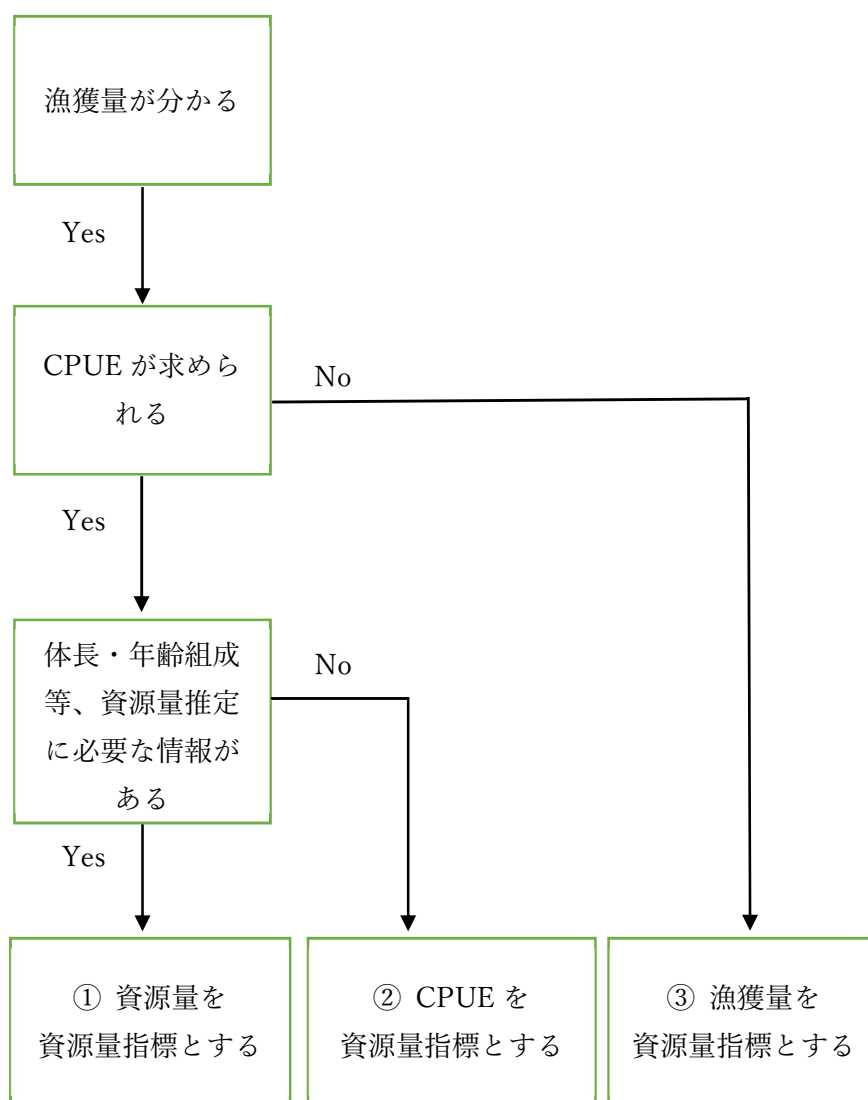
その他本資源評価基準に係る事項については、資源担当者会議による協議を経て、資源評価会議で決定する。

資源評価に用いる「資源量指標」及び「資源管理目標の提示方法」

別紙 1

	資源量指標 (△：国と都道府県で行う評価票から引用)				資源管理目標の提示方法 (△：国と都道府県で行う評価票から引用)			
	資源量	C P U E	漁獲量	その他 ※過去に使用 ※※研究実績あり	MSY管理基準値 (案) (親魚量、漁獲圧)	ABC	CPUEの水準 (維持、増大等)	漁獲量の水準 (維持、増大等)
キンメダイ	△	○	○		△			
ハマトビウオ		○ (標準化CPUE)	○	※資源量		○		
タカベ		○	○	※資源量			○	
ハマダイ (小笠原海域)		○	○				○	
メダイ		○	○	※※標準化CPUE			○	
トコブシ			○					○
イセエビ		○	○				○	
イセエビ類 (小笠原海域)		○	○				○	
ムロアジ (ムロアジ類)		○	○	※※標準化CPUE			○	
テングサ			○	枠取量 (密度)				○
メカジキ (小笠原海域)		○	○				○	
カンパチ (カンパチ類)		○	○				○	
キハダ		○	○				○	
ムツ (ムツ類)		○	○				○	
ソデイカ (小笠原海域)		○	○				○	

資源の評価方法



資源量指標は、漁獲方法が変わらずに収集された連続する値を用い、過去最高値を3等分し、上位から「高位」「中位」「低位」とし、資源水準を評価する。

資源動向は、資源量指標値の直近5年間の変化を回帰直線の傾きに基づき判断し、年変動率5%以上の増加を「増加」、5%以上の減少を「減少」とし、5%未満の増加又は5%未満の減少を「横ばい」とする。年変動率は回帰直線の傾きを中間年（3年目）の推計値で割る事で求めることとする。